

## 大山恵みの里プロジェクト

問 (近藤議員)

大山恵みの里プロジェクト推進委託金で200万円、補助金100万円余り。今年度の取り組みは。

答 (後藤企画情報課長)

大山恵みの里事業の具体的な作業に入る。募集した地域プロデューサーを中心に組織作り、商品開発、販売拠点施設の検討に取り組む。



にぎわう大山カラス天狗市

答 (山口町長) それぞれ旧3町のこれまでの交流の歴史なり過程がある。それを尊重しながら、新大山町としてどういう位置づけにしたいのかをしっかりと検討しながら進めている。

その他、国が進めているいろいろな町づくりの事業を取り込むための、アドバイザーの支援業務委託料である。

補助金は、カラス天狗市実行委員会の運営にかかる経費であり、イベント開催費や視察研修への補助である。

## 国際交流

問 (近藤議員)

今後の国際交流の方向性は。また、主管的に扱う部署が必要ではないか。

答 (高木幼児教育課長) ふれあい会館に相談員1名が週2回勤務し相談に応じており、それ以外の時は、携帯電話で対応している。番号は広報誌等に載せている。米子児童相談所との連携もっている。

交流の目的を明らかにしながら、町民の皆さんに参画いただき、そして、より成果の上がるような交流にしていきたい。

## 教育

問 (遠藤議員)

要保護児童対策の内容は。

答 (岩井議員)

御崎漁港と御来屋漁港に多くの予算が計上されている。内容は。

答 (福田住民生活課長) いろいろ検討したが、新しい補助金等はないので、取りあえずダイオキシンの調査をし、取り壊し設計をする予算である。工費はダイオキシンの数値によって、7000万円から2億2000万円程度の差がある。

## 水産業

問 (岩井議員)

漁港整備については、漁村整備交付金と漁村再生交付金、そして港整備交付金、この2つの事業で18年度から22年度までの5年間で取り組んでいくところである。19年度の御崎漁港の工事は、防波堤を25メートル延長するもの。御来屋漁港の工事は、離岸堤の移設25メートル、突堤の延長20メートル等を予定している。

## 農業

問 (森田議員)

農地・水・環境保全向上活動支援事業に関して、平成19年度に取り組みされる集落の数と、中山間地域直接支払い制度とダブりの集落数は。また、20年度からでも取り組みが可能か。

山間地域直接支払い制度とのダブりは16集落である。20年度以降は不明確である。特産物の開発や高付加価値の産物を作るのが狙い。大山恵みの里構想の中で8品目指定選定している。大山そば、地大豆、高原ブルーベリー、地鶏、特裁ブロッコリー、特裁ねぎ、特裁梨、りんご、これら8品目を展示ほ場を設けて試験栽培する予定である。

答 (渡辺産業振興課長) 事業補助金の内容は。大山ブランド開発支援

答 (渡辺産業振興課長) 希望数だが51集落、中



整備が続く御来屋漁港